

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成27～31年度)

「バレエ情報センター機能の構築」

日本のバレエ教育環境の 実態分析

『バレエ教育に関する全国調査』基本報告

小山 久美 (昭和音楽大学)

海野 敏 (東洋大学)

日本のバレエ教育環境の 実態分析

『バレエ教育に関する全国調査』基本報告

小山 久美(昭和音楽大学)

海野 敏 (東洋大学)

1

1.研究の目的と方法

2

研究の目的

- 日本におけるバレエ教育の実態を全国規模の
悉皆調査によって実証的に把握
 - バレエに特化した唯一の全国調査
 - 2011年9月に第1回を実施(同年、東日本大震災)
 - 2016年9月に第2回を実施
- 5年間のバレエ教育環境の変化を量的に分析
- エビデンスに基づき日本のバレエ教育環境の
改善に向けた政策提案を行う準備
- 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(文科省)
『バレエ情報センター機能の構築』の一環として研究
を遂行中

3

研究の方法

- バレエ教育を行っている組織・団体
(以下「バレエ教室」と総称)を単位とする調査
 - 個人(学習者、教員)を単位とする調査で全国の実
態を把握することは困難
 - 全国のバレエ教室の情報を各種の名簿、ウェブ上
での検索などで可能な限り網羅的に収集
- 郵送法による調査
 - A4判、4ページの調査票
 - 2011年調査とほぼ同一の設問(全20問)
 - 発送から締切まで約1か月、ハガキによる督促

4

回収結果

	2011年	2016年
発送数	4,630件	4,793件
返送数	1,484件	1,557件
回収率	32.1%	32.5%
バレエを教え ている教室数	1,335件	1,503件
生徒数の 有効回答数	1,304件	893件

5

2.バレエ学習者の実態

6

推定結果

推定数	2011年	2016年
全国教室数	4,530件	4,640件
全国学習者数 (人口比)	40.0万人 (0.31%)	▼35.8万人 (0.28%)
全国男子生徒数 (学習者比)	5.5千人 (1.4%)	▲7.9千人 (2.2%)
全国教師数	1.9万人	▲1.5万人

7

年齢層別の生徒在籍率

	2011年	2016年
3歳以下	22.0%	21.2%
4歳～就学前	84.8%	82.6%
小学1・2年	88.4%	▼85.1%*
小学3・4年	88.3%	▼84.8%**
小学5・6年	83.5%	84.0%
中学生	76.8%	▲79.9%*
16～19歳	68.0%	71.0%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

8

年齢層別の生徒在籍率(つづき)

	2011年	2016年
20代	70.8%	▼66.3%*
30代	76.8%	▼68.8%***
40代	79.9%	78.8%
50代	69.2%	▲74.3%**
60代	45.8%	▲58.7%***
70代	10.3%	▲19.5%***
80歳以上	1.4%	2.5%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

9

日本の人口構成の変化①

総人口 2011年=1億2,780万人、2016年=1億2,693万人

	2011年	2016年
0～9歳	8.4 %	8.2 %
10代	9.4 %	9.0 %
20代	10.6 %	10.0 %
30代	13.9 %	12.0 %
40代	13.5 %	14.9 %
50代	12.5 %	12.1 %
60代	14.5 %	14.5 %
70代	10.4 %	11.0 %
80歳以上	6.7 %	8.2 %

10

日本の人口構成の変化②

総人口 2011年=1億2,780万人、2016年=1億2,693万人

	2011年	2016年
0～9歳	1,079万人	1,045万人 (-3.2%)
10代	1,199万人	1,148万人 (-4.2%)
20代	1,359万人	1,269万人 (-6.6%)
30代	1,781万人	1,523万人 (-14.5%)
40代	1,728万人	1,893万人 (+9.5%)
50代	1,596万人	1,540万人 (-3.5%)
60代	1,849万人	1,835万人 (-0.8%)
70代	1,333万人	1,394万人 (+4.6%)
80歳以上	857万人	1,046万人 (+22.2%)

11

3. バレエ教室の実態

12

バレエ教室の経営主体

	2011年	2016年
個人	70.1%	↗ 74.7%**
企業	23.6%	↘ 18.0%***
バレエ団	1.8%	1.6%
学校\$	1.1%	0.4%
その他	2.3%	3.9%
無回答	1.0%	1.3%

(注)\$幼稚園、保育園を含む ** p<1% *** p<0.1%

13

バレエ教室の規模

	2011年	2016年
生徒数 平均	88人	77人
中央値	55人	50人
男子平均	1.2人	↗ 1.7人***
教師数 平均	4.2人	↘ 3.2人***
中央値	3人	2人

(注)*** p<0.1%

14

4.バレエ教育内容の実態

15

教師の経歴

	2011年	2016年
バレエ団に現在所属している バレエ教師がいる	27.5%	↘ 22.9%**
バレエ団にかつて所属してい た教師がいる	46.1%	48.3%
バレエ以外の舞踊団に現在所 属している教師がいる	6.1%	4.4%
バレエ以外の舞踊団にかつて 所属していた教師がいる	8.8%	9.6%
以上にあてはまるバレエ教師 はいない	30.2%	32.3%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

16

教師の資格保有率

	2011年	2016年
バレエ指導者資格を取得 した教師がいる	15.4%	16.2%
バレエ指導者資格の取得 を考えている教師がいる	5.8%	↗ 7.8%*
バレエ指導者資格を取得 した教師はいない	80.9%	79.4%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

17

レッスン種別の実施率

	2011年	2016年
オープンクラス	33.3%	↗ 38.1%*
ストレッチのクラス	37.9%	41.5%
ポアントのクラス	47.5%	↗ 53.9%**
大人の初級クラス	72.9%	75.8%
美容や 健康のためのクラス	39.5%	40.6%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

18

レッスン種別の実施率(つづき)

	2011年	2016年
ヴァリエーションのクラス	29.8%	↗40.3%***
アダージオ(パ・ド・ドゥ)	14.3%	↗19.1%**
キャラクターダンス	5.6%	5.5%
プロ志望者向けのクラス	13.3%	15.8%
ボーイズクラス	5.6%	6.0%
コンテンポラリーまたはモダンダンス	18.4%	20.8%

(注)* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

19

バレエ教育の各種実施率*

	2011年	2016年
ピアノの生演奏	9.3%	9.4%
発表会の開催	85.7%	87.5%
コンクールへ参加	51.1%	↗63.1%***

(注)いずれも有効回答数に対する割合

* p<5% ** p<1% *** p<0.1%

20

5. 考察

21

学習者(生徒)についての考察①

- **全国バレエ学習者総数はやや減少**
 - 2011年の推定値 40.4万人
 - 2016年の推定値 35.8万人(11%減)
- **人口減少よりも大きい減少、市場は縮小**
 - 日本の総人口は0.7%減
- **家計における「教養・娯楽」の支出減少に対応**
 - 『家計調査』(総務省)2人以上の世帯の消費支出

2011年7月～9月	2016年7月～9月
消費支出 277,355円	⇒ 273,842円(-3,514円)
教養・娯楽 30,227円	⇒ 29,103円(-1,124円)

22

学習者(生徒)についての考察②

- **男性のバレエ学習者総数は増加**
 - 2011年の推定値 5.5千人
 - 2016年の推定値 7.9千人(44%増)
- **男性バレエダンサーの定着へそれなりの前進**
 - マスメディアへの露出増⇒ロールモデルの定着
 - しかし、まだ圧倒的少数(学習者の2.2%)

23

学習者(生徒)についての考察③

- **年齢層別の生徒在籍率の変化**
 - 小学生1～4年は微減、中学生は微増
 - 20、30代は減少、50～70代はかなり増加
- **人口構成の変化に対応**
 - 小学生1～4年、20、30代の減少は人口変化に対応
- **人口構成の変化よりも大きい変化**
 - 中学生は人口減少にもかかわらず微増
 - 50～70代は人口増加よりも大きな増加

50代 69%⇒74%	60代 46%⇒59%	70代 10%⇒20%
-------------	-------------	-------------
 - 高齢女性のバレエ学習への参加が増えている

24

教室についての考察

●経営主体、規模の変化

- 教室数の推定値 4,530件⇒4,640件
- 個人経営 70%⇒75% 企業経営 24%⇒18%
- 生徒数 平均 88人⇒77人 最大7,000人
- 教師数 平均 4.2人⇒3.2人 最大 200人
- 教師1人の教室 22.2%⇒28.6%

●バレエ教育市場の縮小の影響

- 一部の企業が撤退し、個人経営が増加か？
- 教室あたりの生徒数、教師数が減少
- 教室総数は同じままで教室の小規模化が進む

25

教育内容についての考察①

●教師の指導者資格の取得

- 取得した教師がいる割合 15%⇒16%
- 取得を考えている教師がいる割合 6%⇒8%

●指導者資格の普及は進まず

- 取得を考えている教師が増加⇒認知度は向上？

●バレエコンクールの参加

- 前年に参加した生徒のいる割合 51%⇒63%

●国内バレエコンクールの増加の影響

- 近年、コンクールの開催数が増加【別途調査中】
- キャリアパスとしてのコンクールの定着？

26

教育内容についての考察②

●レッスン種別の実施率の変化

- ヴァリエーションクラスはかなり増加 30%⇒40%
- アダージオクラス、ポアントクラス、オープンクラスもそれぞれ増加

●プロ養成のための専門的な教育内容が増加

- ヴァリエーション、アダージオ、ポアントは、コンクールの指導、プロ志望者の教育に不可欠
- バレエ教師の指導力の向上も影響している？

●市場縮小に対応した経営努力の側面も？

- ヴァリエーションクラスは学習者の人気が高い
- オープンクラスは受講しやすく生徒獲得に有効

27

6.まとめと展望

28

まとめ

- 日本のバレエ教育環境は、5年間で市場としては1割ほど縮小し、学習者総数は約36万人
- バレエ学習者は、50～70代の女性の在籍率がかなり増加、男性もそれなりに増加
- バレエ教室は、いっそう小規模化が進行
- バレエ教育内容は、プロ養成のための専門的なクラスを実施している教室が増加、コンクールへの参加も増加

29

今後の研究課題

- バレエ教育環境の地域差の分析
 - 都道府県別のデータ分析
 - 都市圏と地方の差異の分析
- バレエ教育内容の分析
 - コンクールに関するデータの分析
 - バレエ教室の規模による教育内容の差異の分析
 - 資格のある教師の有無による差異の分析
- バレエ教授資格の効果の分析
- 自由記述の回答の分析
- バレエ教育環境の改善への政策提言

30